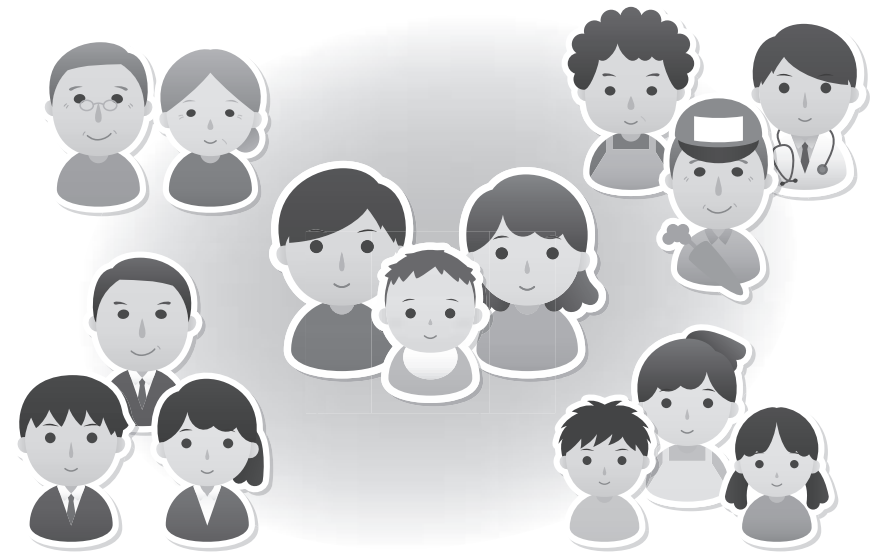


## ゆた 豊かさの続く明るい日本の未来をめざして

戦争が終わった直後の1940年代末頃に7,800万人くらいだった日本の人口は、現在は約1億2,700万人、1.6倍になりました。経済の規模を示すGDPは、高度経済成長前の1955年に47兆円でしたが、現在は480兆円、10.2倍まで大きくなりました。半世紀余りの間にはこのくらい大きな変化が生じます。

現在のままだと、日本の人口は、100年後には3分の1くらいの4,000万人くらいになり、それに伴って経済の規模も急速に縮小し、多くの地方のまち・むらが行きづまることになると考えられています。ただし、これは「現在のままだと」という仮定の下での単純な推計に過ぎません。未来は、人々の行動、特に若い人たちの行動の変化によって変わります。



現在の暮らし方は、時代が大きく変わってきているなかで、すこし窮屈に無理をしている面があるかもしれません。都会に出て忙しく働き、ふるさとをかえりみる余裕もないままに過ごす。結婚し、家庭を築き、子どもを産み育てたいと思いながら、現実にはそうもいかないまま、どんどんと歳を重ねている。もう少し、希望がかないやすい社会であることが必要です。地域の魅力や特色、日本らしさが大切にされ、希望に沿った働く・産むの選択ができる、そんな社会です。多くの人々がそのことに気が付き、世の中の仕組みも少しずつ変わりはじめています。

希望をもって希望をかなえようとする一人ひとりの挑戦や努力と、希望がかないやすい社会にしていく周囲の理解や協力があれば、未来は変わっていくことでしょう。人々の行動が変わる場合と、現在のままの場合では、到達する未来—一人ひとりの未来と、日本全体の未来—はととても大きく違ったものになります。